



# 陽子の道政だより

# 56

2013年 新緑号

発行 平出陽子後援会

発行責任者 上田 小八重

連絡先/函館市中島町2-8  
北教組函館支部内  
(☎33-5080)

## 「アベノミクス」マジックに 庶民はだまされません!

—夏の参議院議員選挙で—



北海道議会議員

平出陽子

横津の峰々の雪も少なくなり、函館地方もやっと春の訪れを感じるようになりました。

春のウキウキ感と円安報道が相まって、国民は景気の好転を信じようとしています。

輸出産業は円安の恩恵を享受していますが、原材料費の高騰で物価が上がり庶民の生活を直撃します。

給料が上がるまでこの苦しい生活をがまんしなければならぬのでしょうか。マスコミもこの実態をあまり報道しないのが不思議なくらいです。

今年七月の参議院議員選挙で、安倍政権は「アベノミクス」マジックを使い、国民が景気回復だと感じている隙に、憲法九条改正の布石である憲法九六条の改「正」(憲法改正は各議院の総議員の2/3以上の賛成が必要↓1/2以上にする)が争点になります。単なる手続きの問題だからと軽視できません。

原発再稼働・新設許可やTPP交渉に前のめりの現政権に参議選でも大勝を与えてはならないと私は思っています。どうぞご支援をお願い致します。

第一回定例道議会では、我党派は、予算案に反対しました。赤字団体に転落寸前の道が、国に追従し公共事業予算を乱発するからです。

第一回定例道議会では、我党派は、予算案に反対しました。赤字団体に転落寸前の道が、国に追従し公共事業予算を乱発するからです。

前向きな答弁ひき出す

＝花粉の少ない品種の導入＝

道議会第1回定例会  
予算特別委員会で質問



函館山の杉植林状況 (公会堂裏)

△今定例会は、一次産業担当部に  
対して質問したのですね。

△平出▽一日目は水産林務部に  
「花粉の少ない森林への転換に  
ついて」の項目で質問しました。  
この時期になると花粉症の  
ニュースが報道されますので、  
北海道の花粉症について調べて  
みました。花粉症の除去・対処法  
はいろいろありますが、現在の

ところ根治ワクチンは開発され  
ていませんで、行政のできる  
花粉予防のひとつとして花粉の  
少ない森林への転換が叫ばれて  
います。

△平出▽百年先を見据えた森林  
づくりと銘うちながらも、一切  
触れていませんで今回質問を  
したわけです。

△平出▽北海道の森林づくり基本計  
画には花粉症対策がありますか。

△平出▽独立行政法人森林総合  
研究所で開発された少花粉スギ  
や無花粉スギを育種・育苗し、植  
林しているそうです。

△平出▽飛来する環境汚染物  
質PM2.5はスギ花粉と結合  
し、花粉症を重症化します。



「杉・白樺花粉について」水産林務部へ質問

渡島・松山にとってなじみ深  
い杉林(写真①)函館山の中腹か  
ら谷地頭にかけても、他管内で  
は植林されていないので、道の  
関心も低かったのかもしれない  
せん。道央ではスギよりもシラカ  
バ花粉症が多いそうです。

△他県の花粉の少ない森林づ  
くりとは、どのようなことす  
か。

△平出▽道内には杉の植林面積  
は少ないので、スギ花粉症罹患  
者も少ないですが、森林総研と  
連携し、新たに植林する時は、  
花粉の少ない品種に変える事。  
更に道総研林業試験所での少  
花粉シラカバ研究を強化し、植

△平出▽独立行政法人森林総合  
研究所で開発された少花粉スギ  
や無花粉スギを育種・育苗し、植  
林しているそうです。

△平出▽道内には杉の植林面積  
は少ないので、スギ花粉症罹患  
者も少ないですが、森林総研と  
連携し、新たに植林する時は、  
花粉の少ない品種に変える事。  
更に道総研林業試験所での少  
花粉シラカバ研究を強化し、植

農政部へ質問

農業・農村における男女平等意識について

△女性の社会参画実態調査費計上

△今頃になって、新規事業とし  
て「女性の社会参画実態調査  
費」が計上されたのですか。

△平出▽これまで調査は女性農  
業者対象でしたが、重点地区を  
指定し、家族や農協等の関係機  
関を対象にして詳細に実態を把  
握しようとするものです。

△平出▽実は私もびっくりした  
のです。今から十四年も前の一

△平出▽これまで調査は女性農  
業者対象でしたが、重点地区を  
指定し、家族や農協等の関係機  
関を対象にして詳細に実態を把  
握しようとするものです。



「農村の男女平等意識について」農政部へ質問

△平出▽これまで調査は女性農  
業者対象でしたが、重点地区を  
指定し、家族や農協等の関係機  
関を対象にして詳細に実態を把  
握しようとするものです。

林時には花粉の少ない品種に変  
更する事と訴えたのです。

△前向きな答弁とは？

△平出▽少花粉スギの試験的導  
入を検討する、少花粉シラカバ  
苗木の活用を市町村等に働きか  
けるとのこと。環境に配慮した  
森林づくりを進めるとの答弁で  
した。(写真②)

△これまで実態調査はしてい  
なかつたのですか。

△平出▽基本法制定後の○三年  
と○七年に実施はしています。

△平出▽これまで調査は女性農  
業者対象でしたが、重点地区を  
指定し、家族や農協等の関係機  
関を対象にして詳細に実態を把  
握しようとするものです。

△新年度実施する調査とは？

△平出▽これまで調査は女性農  
業者対象でしたが、重点地区を  
指定し、家族や農協等の関係機  
関を対象にして詳細に実態を把  
握しようとするものです。

△平出▽これまで調査は女性農  
業者対象でしたが、重点地区を  
指定し、家族や農協等の関係機  
関を対象にして詳細に実態を把  
握しようとするものです。

### 住民が一体となった 福祉の街づくり

## 伊達市に インクルーシブの 原点を見る

伊達市の障がい者地域生活支援状況を調査してきましたね。



① 移転改築後の「太陽の園」を説明する総合施設長

②③を研修先に選びました。大規模障がい者入所施設として一九六八年に公設民営で入所者一〇〇名の「太陽の園」が誕生し、二年後には更に四〇〇名に増えました。

は九〇ものグループホームがあります。ですから街の中で障がい者に出会うのが日常風景です。「太陽の園」はあと四〇名の入所者を地域生活できるように支援体制を整備しているそうです。

### 重度心身障がい者の 支援住居「野ぶどう」見学

④ これまでの地域生活は軽度の障がい者だけが可能とされていきましたが。

△平出▽確かに今でもそのような考えが多いのですが…

家族会や元太陽の園職員の方達が新法人を設立し、車椅子の重度障がい者でも家庭から職場へ通勤できるようにしました。



「野ぶどう」のホーム長から住宅工夫の説明を受ける女性議員。たいへん家庭的な雰囲気を感じました。



「湯ったり館」の外観と総ヒバ材使用の浴室

写真②③は、「野ぶどう」の居間です。手洗い場を引き戸の中に隠す工夫をしたり、別の引き戸を開けると個室に繋がる廊下が広がってくる設計です。

④ 個々に対する支援ならば、多くの人手が必要ですね。

△平出▽そうです。このような住居ではヘルパーさんは入居者と一対一の割合で対応しています。そうでなければ重度の方達が地域生活することは難しいですね。

△福祉の街づくりは「働く場が増える」ことでもありますか。

△平出▽福祉にとって一番必要なのは担い手です。九〇ものグループホームがある伊達市ですからヘルパーさんの人数を確保することはたいへんだそうです。近隣の町からも応援してもらっているとのことでした。

△障がいの有無なく利用できる施設もありましたね。

△平出▽写真④の「湯ったり館」は、上記の浴室だけでなくエステや癒やしの空間もあり、地域住民の皆さんにも開放していました。「野ぶどう」(一粒一粒の実際の色が違うぶどう)の精神は法人のみならず福祉の街づくりと一致します。

#### <第1回定例道議会で採択された決議・意見書>

- ◎ TPP 交渉に関する決議
- ◎ 朝鮮民主主義人民共和国の核実験に抗議する決議
- ◎ TPP 協定交渉への参加に関する意見書
- ◎ 地方交付税及び地方公務員給与に関する意見書
- ◎ トンネルじん肺根絶に向けた抜本的な対策を求める意見書
- ◎ B型肝炎・C型肝炎患者の救済に関する意見書
- ◎ 水難救難所員の身分保障制度の確立と救助活動に対する支援制度の拡充に関する意見書

#### 北海道の2013年度予算

一般会計	2兆6875億円
特別会計	5869億円
計	3兆2744億円

しかし2012年度末の道債(借金)残高見込み  
5兆9100億円

※2011年度末より道債残高が1300億円増加したのは、国の大型補正に準じて1500億円の補正予算を組んだ結果でもある。

# で見る 陽子の 道政日記



▲ 前副総理 岡田克也衆議院議員と意見交換会



▲ 障がい者支援住宅「野ぶどう」視察 (伊達市)



▲ 民主党北海道女性議員等連絡会議 参議選に向けて意見交換会 (札幌市)



▲ ひまわりの会道政報告会・懇親会



第1回定例道議会予算特別  
委員会で農政部へ質問



▲ 道南I II III会新年交礼会



▲ やめるべ! 大間原発 北海道大会 (函館市)



▲ 函教互大懇親会



▲ 函退教新春懇親会

折、道南の桜が待ち遠しく感じられます。3・11の大震災から2年が経過し、震災から復興するため、日々の生活を前向きにも生きる人々の様子が報道特集で伝えられるとともに、未だに生活を取り戻すことができない原発事故周辺地域に住む人々の暮らしが伝えられました。そのような中で、福島原発の停電や放射線を含んだ汚水漏れの発生は、原発の抱えるリスクの大きさを改めて証明しました。未来の子も達には私たちが何を残すべきなのか。対岸の大間原発の工事が再開されています。福島の満開の桜を願うとともに、道南の桜がこれからも咲き、平和な世の中であり続けるために、平出陽子は声をあげていきます。後援会として、これからも皆様の厚いご支援とご協力をお願いいたします。

## あ と が き



安心と希望の社会を目指して。

参議院議員 [北海道選挙区]

# 小川勝也

